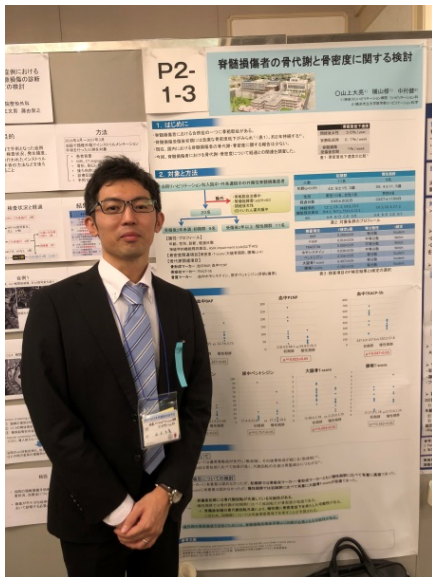


## 第 52 回日本脊髄障害医学会印象記

千葉市にある三井グリーンホテル千葉で 11 月 16 日、17 日に開催された第 52 回日本脊髄障害医学会に参加しました。

札幌医科大学の山下敏彦先生による自家骨髄間葉系細胞の静脈内投与による細胞療法についての特別講演では、2014 年に開始された医師主導治験について現在副作用なく良好な機能回復が得られていることを報告されていました。現在発症から 14 日以内の頸髄損傷のみが対象となっており、今後胸腰髄レベルの脊髄損傷患者への適応拡大も望めます。

また慶應義塾大学の里宇明元先生は、一般にも用いられているクラウド技術を用いたリハ実施中患者のモニタリングとフィードバックや BMI (Brain Machine Interface) 療法の実践など、リハ治療の効率化、高度化を図る「スマートリハ構想」について講演され、新たなリハ治療の形を提言されていました。



シンポジウムでは諸先生方の講演に加えて、全国脊髄損傷者連合会千葉県支部の露崎耕平氏による講演があり、患者目線からの生活体験・仕事などについて語られました。特に印象的だったのは、東日本大震災以降高層ビルにオフィスを構えている会社・事業所が車椅子利用者の雇用に消極的な姿勢があるということでした。

自身では、脊髄損傷者において受傷後初期に骨代謝回転が亢進し、慢性期に骨密度低下を来している可能性についてポスター発表をさせて頂きました。

全体として、再生医療など新しい治療法が現実的になってきていることを感じられましたが、一方で間近に迫る東京オリンピック・パラリンピックへの社会の課題も垣間見えた学会参加となりました。

神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション科 山上 大亮